

あの日と今

沖縄県立首里高等学校三年 三留 伸子

おばあが亡くなって今年で八年
あなたはいつも私に
「命」について教えてくれた
いつでも、どんな時でも

七十六年前

沖繩が沖繩でなくなった日
あなたは爆弾のふり注ぐ中を
見知らぬ人の上を歩き
食べるものを捜し
赤く染まった水を飲んだ
今日という、
そのたった一日を生きることが必死だった
家族と離れ
友達を失い
さみしい思いをしたことは
今でも決して忘れない

六月二十三日

この日
いつも優しいあなたの顔が暗くもる
今でもあなたは生きているのか
どんなに辛く苦しくても
前を向いて生きているかと
モノクロの写真がおばあに問いかける
おばあは涙を流した
私が生きていてもいいのか
私もあの時
この記憶や写真がおばあをずっと苦しめる
それでも

亡くなった人の名前を指でなぞりながら
「あなたのぶんまで生きますよ」
と一声かける

そして
もう二度と戦争が起こりませんように
と強く、強く祈るあなたの姿は
今を生きる私たちにとって
「命」の大切さを教えてくれた

私は心から願う
あなたがいつまでも笑っていて
幸せであることを
そして
また一緒に笑い合える日が
いつかくることを

空に大きな虹がかかった今日
いつまでも
平和な毎日が訪れるよう
私は祈り続ける